

## 『濱口梧陵翁胸像』除幕式



7月16日(土)、稲むらの火の館正門前において、濱口梧陵生誕200年記念『濱口梧陵翁胸像』の除幕式が挙行されました。

朝から、かなり大きな雨が降ったりで、銅像前での式典が心配されましたが、式典開始前からほとんど雨が止み、予定通り開会できました。

西岡利記町長が開会挨拶で、胸像建立に至った経過と、ここ数年で実施されてきた「稲むらの火の館」周辺整備事業について話されました。

まず、「胸像除幕式」では、主催者側の西岡町長、池田尚弘教育長、来賓の二階俊博衆議院議員、鶴保庸介参議院議員、下宏和歌山県副知事、濱口道雄ヤマサ醤油(株)代表取締役会長、橋本和明胸像製作者、吉井和視和歌山県議会議員、山家敏宏県議会議員、梶原和昌広川町議会議員長の10人が紅白のひもを引き胸像を覆った白布を除幕しました。同時に、広小学校5、6年生が手に持った



風船を放ち、大空高く舞い上がりました。

除幕によって、見事な胸像が参列者の前に現われました。除幕者の皆様は、両側に並んで記念撮影に応じられました。

来賓の二階衆議院議員、鶴保参議院議員、仁坂和歌山県知事(下副知事代読)、濱口ヤマサ醤油会長、吉井県議会議員からご祝辞を頂戴しました。

池田教育長の胸像建立経過報告のあと、胸像の橋本和明製作者が制作過程を話されました。

西岡町長から橋本様、周辺整備工事を施工された株式会社ワカノ様に感謝状を贈呈しました。

その後はアトラクションとして広小学校5、6年生の「稲むらの火」の合唱は、途中手話も交えてすばらしい歌でした。



そして、「疾風打太鼓」の演奏は力強い勇壮な音量に感激しながら、一連の除幕式は終了いたしました。



「濱口梧陵翁」の胸像は、「稲むらの火の館」正門横にあります。いつでもご覧いただけますので、「梧陵さんパワー」をいただいでください。



# 百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

## 第17回 『星の王子さま』にまなぶ

サン＝テグジュペリの代表作、『星の王子さま』を読んだことがある人は大勢いるのではないか。この物語の中盤で、王子さまがキツネに出会うシーンがある。王子さまは、自分の悲しみを紛らわせるために、キツネに対して『ぼくと遊ばないか?』と誘いかける。このとき、キツネが返した言葉が重要である。岩波書店から1953年に出版されたバージョン、内藤濯氏による翻訳によれば、キツネは『おれ、あんたとは遊べないよ。飼いならされちゃいけないんだから』と答えている。そしてこの「飼いならす」という言葉を言い換えて、『よく忘れられていることだがね。＜仲良くなる＞っていうことさ』と説明を添えている。

ここには、どのような含意があるのだろうか。王子さまは、目の前に現れたキツネを、単に動物としての“狐”として見ている。この段階では、遊ぶことなどできない。互いの心が通い合わないからだ。そうではなくて、キツネを、かけがえのない“きつね”として、たとえば、ニックネームで呼び合える間柄になれば、遊ぶことができる。キツネは、王子さまに言う。『おれは、十万ものキツネとおんなじなんだ。だけど、あんたが、おれを飼いならすと、おれたちは、もう、おたがいに、はなれちゃいられなくなるよ。あんたは、おれにとって、この世でたったひとりのひとになるし、おれは、あんたにとって、かけがえのないものになるんだよ…』。

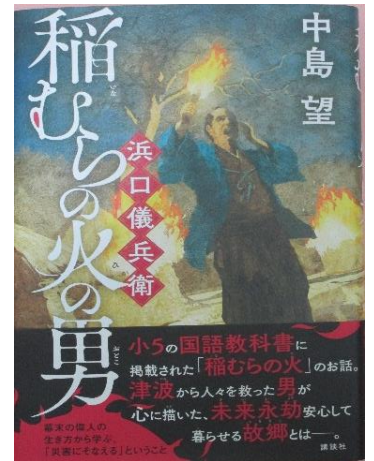
たとえば「災害時要配慮者」というカテゴリーで捉えようとしているかぎりにおいて、人は人を救いきることなどできやしない。大切なあの人、具体的な名前前で呼び合うあの人をこそ、救おうとするものだ。「飼いならす」という術語は、別の本では「なじむ」と訳出されている。おたがいに顔馴染みになることは、防災の第一歩と言える。梧桐さんも、村人たちとふれあっていたように。

## 【館長日記】

7月〇日 インターネットを触っていると、これまで見たことのない書籍の表紙がでてきました。中島望著「稲むらの火の男・浜口儀兵衛」という本です。さっそく注文して購入しました。これまで、新たに出版される場合は、事前に連絡がありました。資料集めの段階や、仕上げの段階で内容の確認などです。今回は全くそういう連絡はなかったので、出版されるまで知りませんでした。

子どもにも分かるように書かれているということで、読み進むのが早かったです。著者は、和歌山の出身の方だそうです。

7月△日 日本文教出版という教科書出版会社の方が、教員の参考資料制作のために取材に見えました。特に「道徳」の資料ということでした。この出版社は、4年生の社会科にも「稲むらの火」のことが載っています。今回は道徳教科書の方でした。以前に、小学道徳の教科書はいただいたので、館内閲覧コーナーへ置いています。中学校のにも載っているのは知りませんでした。取材の対応はしましたが、「中学道徳」も1冊いただけるようお願いしたところ、この程送っていただきましたので、ご紹介しておきます。昔、教科書へ載った「稲むらの火」全文と広村堤防の写真や断面図、広村の安政津波、昭和南海地震津波の浸



水域の図面なども掲載されています。

いろいろの教科書や出版物で、「稲むらの火」を取り上げていただくことは有難いことです。